

# 千葉県大佐和

## 層序試錐開坑

石和田 靖章

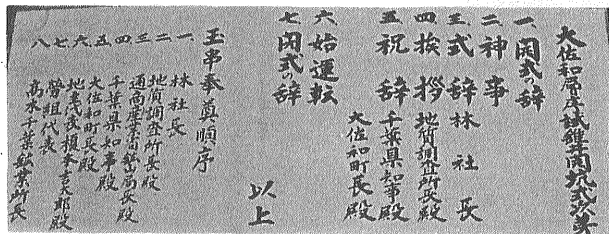
荻生 稲子沢等の中新統諸地層に入るが 中新統の層序が地表で詳らかでないため 深部の層序予測は困難である。 地震探鉱結果では 北翼の数100m以深は30~40°の傾斜を有するものと推定されるが 深部構造はやはり掘さく結果を見るまで不明で 本坑掘さくの課題の1つである。

掘さくに伴い Schlumberger 社の検層 (50m以深 インダクション 音波 連続ディップメーター) を行なうほか 化石調査 帽岩試験 有機物分析 粘土鉱物分析 微量成分分析 磁気測定等が行なわれる。

深部地質不詳のため 確実な工程は予測しがたいが 順調にいけば8月10日ぐらいに完掘と思われる。

なお坑井は海岸波打ちぎわに隣接し 夏季は海水浴場であり 魚釣りに良く 沖に行きかう船と共に風光明媚なところでもある。

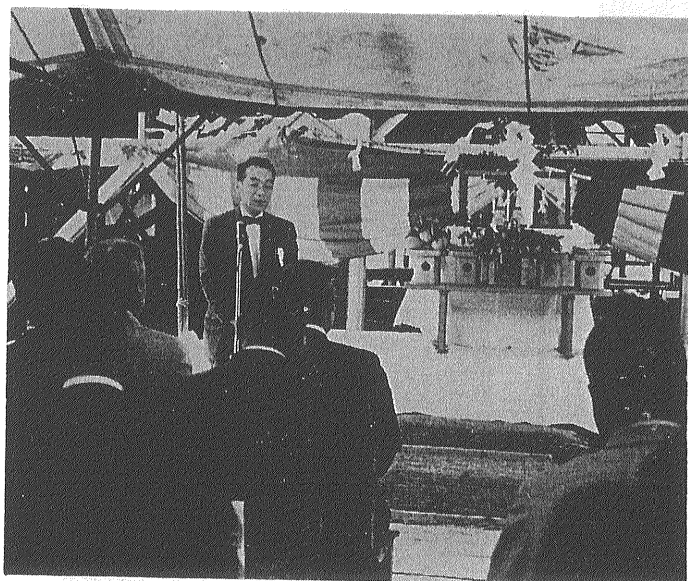
(筆者は 燃料部 石油課長)



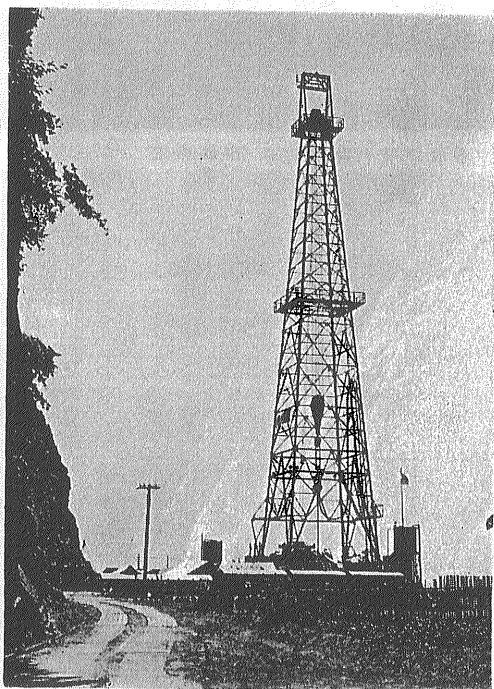
昭和39年度層序試錐計画(天然ガス調査研究)にもとづく第1坑が 千葉県君津郡大佐和町小久保海岸で6月1日開坑した。

本坑井は東京湾を中心とする 関東南部のサブベースンの天然ガス探鉱を促進する目的で掘さくされる。 位置選定に先立ち 38年度に補助金による協同地震探鉱(反射)が付近に実施され また近年相ついで実施された地表地質調査 重力準精査 磁気探査(空中 陸上海上)および海上音波探査の成果が検討されている。 これらを総合し 地表では梅ヶ瀬一大田代層(相当層位)の地層が東西に軸を有するドーム状背斜を構成し 深部では西に開くノーズないし背斜を構成していると思われるが 坑井はその北翼側(地表軸より400m内外北方)に位置する。

掘さく予定深度は3,000mであるが 開坑層位は長浜層 300m付近で上総層群基底を通過する予定で 以下



開坑式で挨拶する鶴田燃料部長



層序試錐井